

令和8年度 第1回岐阜市男女共同参画推進審議会
議事録

日 時	令和8年5月8日(金) 午前 10 時00分～11時 30 分
場 所	岐阜市役所 6階 6-3 会議室
次 第	<p>1. 会長あいさつ</p> <p>2. 新任委員の紹介</p> <p>3. 議題 男女共同参画に関する市民意識調査について</p> <p>4. その他 ・各委員あいさつ ・市民協働生活部長あいさつ</p>
参 加 者	<p>【審議会委員】 大野正博会長、落合絵美副会長、林大貴委員、青山知子委員、瀬瀬晴美委員、中島由紀子委員、松原孝一委員、和田玲子委員、坪内勇人委員、平田雅嗣委員、杉浦アキコ委員</p> <p>【事務局】 (市民協働生活部)熊谷武夫、石神敬文 (市民協働生活部男女共生・生涯学習推進課)小島和幸、増田美帆、内田景子、安藤慎</p>
資 料	<p>1 岐阜市男女共同参画推進審議会委員名簿</p> <p>2-1 令和8年度岐阜市男女共同参画市民意識調査について</p> <p>2-2 市民意識調査 設問比較表</p> <p>2-3 男女共同参画に関する市民意識調査票(改訂版)</p> <p>補足資料1 市民意識調査票の修正について</p>

【会議内容】

1. 会長あいさつ

会長 本日は議題が1件のみですので、終了後、各委員の方から一言ずつ言葉をいただければと考えております。

2. 新任委員の紹介

3. 議題

男女共同参画に関する市民意識調査について

事務局 資料2-1、2-2、2-3（事務局説明）

委員 設問数が少し多いので、市民の方が負担なく、最後まで回答できるような工夫も重要だと思う。

委員 前回、平成28年度意識調査の、回答者の年齢層の割合は出ていますか。

事務局 平成28年度市民意識調査の年齢層の割合は、まず29歳以下が10%、30歳代が11%、40歳代が16%、50歳代が16%、60歳代が23%、70歳代が24%です。

委員 前はすべて郵送で回収をしていますが、今回はWEBでもということなので、若い方の回収率も上がるのではと期待しております。

委員 問1の、あなたの性別は次のどれにあたりますか、という設問について、選択肢に「できない」とあるが、「したくない」の方がより主体的な意思を感じる。

事務局 当初、選択肢を「回答しない」としていましたが、その選択肢では、丸をつけずに回答を飛ばすことと同じことになってしまうと考え、その回答をしたくないという意味が反映できるように「回答できない」としました。

委員 回答したくない人はどこにも丸を打たずに、次の設問に行くと思う。公的機関のアンケートなので、この選択肢はなくてもよいのでは。

委員 自分の性がわからない方をどう拾うか、というところの拾い方として「したくない」「できない」という選択肢があるのでは。4つ目の選択肢は必要だと思う。

- 委員 迷った方を拾うための設問ということであれば、「回答しない」という、どちらでも受け取れる表現は一つの方法かと考える。
- 会長 この点に関しては事務局に一任し、何らかの選択肢は入れ、表現に関しては再度検討するという形でいかがでしょうか。
- 委員 (異議なし)
- 委員 1 ページ目にある回答方法について、アンケートに慣れていない人は、WEB と紙の両方を提出しなければいけないと思うかもしれない。回答にあたっての注意点として、WEB もしくは紙のどちらかでご回答くださいとの記載があると、両方出さなくていいことが確認できる。
問3の選択肢で、「何々だから」というのと、「何々だと思っから」というのが混ざっている。ここの使い分けについて、明確な意図があるのか。
問8の、重度の介護認定を受けた高齢者や体の不自由な人の介護について、「これからは」と入れたことに何か意図があるのかどうか。選択肢についても、自宅で家族が主として介護する、サービスを利用しながら家族を介護する、地域の人々や友人同士で助け合うとあるが、例えば介護サービスを利用しながら、地域で助け合うこともあり得るのでは。そういった方が選択肢を選ぼうとしたとき、少し迷ってしまう可能性もあると思う。
問17、選択肢の1番目「社会全体の理解が進むと思うから」について、もう少し言葉を付け足した方がよいかと思う。「社会全体の理解」は曖昧なので、例えば「男性が育休を取ることにに対する理解」などのキーワードを入れてはどうか。
問24のハラスメントに関する設問の選択肢で、6番目に「不必要に体を触られた」とあるが、「触られる」だけではなくて「触らせる」ということもあるかと思う。
- 事務局 1 ページ目、問3については精査して統一します。
問8については、今後のことを聞いているという認識で作成した。選択肢については選択肢を増やすのか、選択肢5のその他に、具体的にとあるので、そちらに書いてもらうのがよいでしょうか。
- 委員 「これからは」の表現はなしでもいいのでは。後に「望ましい」とあるので、こうなったらいいなという意図も含んでいると思う。
- 事務局 わかりました。
- 委員 会の最初で出た意見で、数が多いと答える気にならないという感覚が確かにあるので、文章は短くてわかりやすい方が、直感で回答できると思う。

問7の「誰が担うべきだと思いますか」ですが、1人じゃなければいけないのか。できるだけみんなで分担して、負担にならないようにしないと介護は続かないのでは。

会長 おそらく問7は、「主に」にアンダーラインがあり、みんなで協力して介護するとしても、主としてというところを尋ねたいのかと思います。

事務局 問8の選択肢を増やすのか、選択肢「その他」に具体的に書いてもらうのか、どちらがよいのでしょうか。

委員 地域だけで対応するのは大変ですし、介護サービスを利用しながら行うのが現実的かと思うので、その部分がわかりやすい選択肢になるといいのでは。

委員 岐阜市在住の男女3,000名で無作為とあるが、無作為の理由はありますか。もしかしたら確率的に偏るかもしれないというのを前提として出しているのか。

会長 では、先ほどの質問の続きの後で、今のご質問を検討します。まず問17の選択肢1で、もう少し具体的な例や内容が示されているとよいのではないかとこのところですが。

事務局 こちらに関しては、もう少しわかりやすい表現をとということでしょうか。

会長 具体例や内容について、もう少しわかりやすい表記にしては、ということかと思います。

事務局 同じようなニュアンスでわかりやすい表現に努めるということで検討します。

会長 それから問24、不必要に身体を触られたという選択肢で、例えば括弧書きで「触らされた」を足すか否かについて。事務局の方で追加するか否かをご検討いただければと思います。

委員 補足で、問8の選択肢4に専門的な施設や病院を利用するとあって、こちらは入所するようなニュアンスでの利用なのか、デイサービスとしての利用なのか。利用するという表現だと幅広いので、もう少しここを明確に書いてもいいのでは。

会長 前回のアンケートとの対比も必要かと思うので、内容を精査し、必要であれば修正を加えるということをお願いします。続きまして、先ほどのご質問、無作為というところについて、事務局か

ら説明をお願いします。

事務局 住民基本台帳の情報を持っている部署に依頼をして抽出をしますが、そこで各年齢層どれぐらいなのか、要は岐阜市民約 40 万人の縮図になるような形で抽出できるのか、このまま 1,500 人ずつで抽出したら、おおよそ近い年齢割合になるのではないかと考えております。

委員 年齢別の回答率を聞いて、年齢別回答率 10 代 12%、20 代 10 何%、10% がずっと続いて 70、80 代になると 23% っていう数字がある。倍ですよ、その回答率は不思議で、20 代の倍の回答を、60 代 70 代がするっていうのは、選び方がおかしいのかっていうふうに疑問に思った。

事務局 先ほど申し上げた別の部署で住民票の管理をしておりますので、そこで年齢層の抽出がどこまでできるかを確認した上で、少しでも岐阜市の縮図になるような形で進めていきたい。

会長 その形で差し支えないかと思えます。

委員 前回のアンケート結果ですが、先ほどのパーセントは 3,000 人のうちに占めるパーセントということか、それともその世代の回答率のパーセントか。

事務局 回答率です。

委員 各世代の回答率 10% から 20% 台で、3,000 人だと 600 人ぐらいの回答になってしまうかと思ったのですが。

事務局 3,000 人の中から回答したのが 1,485 人で、その内のパーセントです。

委員 各年代別の、回答者数の割合は出ていますでしょうか。例えば、3,000 人中 20 代は 200 人に送ったとして、その中の何人が回答したかということなのですが。おそらく回答率はどの年代もほぼ均等なのでは。70 代、80 代の回答割合が高くなったことは、岐阜市の年代別の人口の割合が、70 代、80 代が多ければその結果でもいいのではと思う。むしろ若い方が、送った人数が少ない割に回答率が高かったのではないかなと感じているのですが、どうでしょうか。どの世代で何%の回答があったかが重要だと思う。

今回から回答方法に QR コードを取り入れることで、どれだけ回答率に変化があったかの分析についても、それぞれの年代の回答結果を分析して、その結果を参考に次に活かしていただければいいかと思う。

事務局 今回、QR コードでの回答方法を取り入れましたが、岐阜市でこういった

市民意識調査以外に、企画部という部署において毎年調査を行っており、昨年度から紙による回答方法をなくして、QR コードのみの回答としました。その結果、若い世代の回答が増えて、紙の方がいいという世代の回答が少し減ってきてまして。今回の意識調査につきましては QR コードと紙ベースの併用とさせていただくので、どちらかの方法を選んでいただき回答を求めています。

委員 おそらく統計学的な証明の部分で、先ほど委員がおっしゃったとおり、どうなのかと考える方もいらっしゃると思うので、3,000 人のうち、各年代の人数と回答結果について把握されると、ばらつきもなく、しっかりしていることが証明されるかと思う。

QR コードについては、今回は紙と両方を取り入れ、コストもかかる中でどれだけの効果があるかは、今回のアンケートに限らず、市のアンケートであれば、こういった方法がベストかというのは分析、検証が必要になるかと思う。

会長 その他よろしいでしょうか。
では、事務局から追加のご意見等があればお伺いいたします。

事務局 委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。本日の意見を踏まえて最終修正をしまして、調査票を確定させていただきます。

4. その他

- ・ 啓発誌「ワーク・ライフ・バランス vol.11」について
- ・ 各委員あいさつ

会長 本日予定しておりました議事は全て終了しました。冒頭でお願いしましたが、各委員より一言ずつご挨拶いただければと思います。

各委員 (挨拶、一言)

会長 ありがとうございました。今後も、当該アンケート結果の分析等も含めて引き続きご意見をいただければと思います。
本日は以上ですので、進行を事務局にお戻しします。

- ・ 市民協働生活部長あいさつ

【閉会】